

亀城福祉だより

第49号
平成23年9月発行
亀城学区社会福祉協議会



自分のために、家族のために ～介護予防講座から 8月1日～

学区社会福祉協議会の主事業に、独居死防止を主たる目的にしたネットワーク支援事業があります。一人のネットワーク対象者を民生児童委員・福祉協力員および福祉隣組のトライアングル体制で、日常生活を遠くよりさり気なく見守り安否の確認を行う事業ですが、酒田市では平成三年から実施された地域福祉活動です。地域福祉と言う活字が躍っている現在ですが、二世・三世代が同居していた昭和二十代後半まではこのような活動は必要なかったはずで、昭和三十年代の経済成長に伴う日本列島改造論に端を発した核家族現象の歪がこのような社会的現象を起こした事は間違いない事実だと思っています。私も社会福祉協議会活動に携わってから九年の年月を経過しようとしております。地域福祉とは何ぞやと思ひながら漠然と過ごして来ましたが、今になって少しだけ理解するに至りました。

地域福祉とは、地域に住む人々が結集し、住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう地域全体で支えあう関係を創ることだといわれています。大なり小なり地域で実施される諸活動も立派な地域福祉です。自治会全員の心が一つになり支えあつて行こうとする行動こそが地域福祉の原点なのです。



亀城学区社会福祉協議会
会長 本間 宏

心が一つになることが大切です

地域交流いきいきサロン
おらだのあづばり
亀ヶ崎六丁目自治会
皆老クラブ 会長 佐藤 繁美



私達の町亀ヶ崎六丁目は、亀城学区で一番南側にあります。昭和四



三川町の防災学習館での消火訓練

十九年内川原土地整理組合から、宅地分譲を受けてできた町です。我クラブの会員は五十七名で、色々の行事を内容によって各自得意分野を引き受けてもらい気楽にやってもらいます。四月の総会で一年の行事や日程を決め、全会員平等に任務を担う事になります。

主な行事として、五月のお茶会から始まり、師範を中心にした小道具類の準備は勿論、

園の特設テーブルには、色々のランタンが焼き鳥の煙の中に灯りました。ツマミを並べ各々のテーブルが大きな輪となり、和やかなムードで宵祭りが始まりました。時間の経過と共に、盆踊りの輪も出来、好天に恵まれ、更に十五夜の月も加わり楽しい夏祭りのあづばりでした。

生徒が目指す姿
『みんなが誇れる三中』
酒田市立第三中学校

五月の生徒総会で『みんなが誇れる三中』を目指し「①決まりを守り、あいさつ・礼儀を大切に②勇気・思いやりのある行動ができる③自主的に考える行動」を確認しました。

〇小中高の生徒さん。ご近所のみんな恥ずかしがらずに元気よく、こんにちは“と言ってみてください。笑顔になりますよ。(矢野)

編集委員
阿部 宣子
江口 暢子
大場 直人
田澤 薫
矢野 信子
本間 宏



「壁塗り」に取り組む美術部員

〇人は一人では生きられない！様々な形で支え合い、関わり合いながら生きているのです！(大場)

「もっと知りたい成年後見制度」

酒田市健康福祉部福祉課地域福祉係長
酒田市健康福祉部福祉課地域福祉係主任
社会福祉士

松永 隆
小林 和也
高橋 純

去る七月二日、判断が十分ではない高齢者等を保護、支援するための「成年後見制度」、「市民後見制度」についての取り組みについて研修会を行いました。



成年後見制度って？

認知症や障がい等により、自分で自分のことを判断できない状態の方のために、法律的にその人の権利を守る手続きをしてくれる援助者を裁判所が指定する制度のことです。

※判断能力が不十分、とは「自分で行った行為の結果を予想できない」という状態のことを指します。

任意後見制度って？

将来判断能力が不十分となった場合に備えて「誰に」「どのような支援をしてもらうか」をあらかじめ契約によって決めておくものです。

法定後見制度って？

判断能力が不十分になってか



研修会に携わった講師の方々。
左から高橋さん、小林さん、松永さん。

らの場合、家庭裁判所に申し立てをします。判断能力に応じて「後見人」「補佐人」「補助人」が選ばれます。

酒田市内の方の利用状況は？

高齢化に伴い、支援が必要なる方も増えており、後見人が不足しているのが現状です。後見人の仕事は、大変負担の重い仕事です。一方で後見制度を学んだ人から後見人になってもらうという仕組みがあります。成年後見センターがある横浜市や仙台市では、市民後見人を増やす取り組みが進んでいます。酒田市でも今後検討がなされるという事です。

市民後見人って？

社会的経験や知識を有する市民が養成プログラムを受講し、「市民の目線」で後見人の役割を担うというものです。平成二十四年度からの老人福祉法の改正にも市民後見人の育成が盛り込まれる予定です。

私たちの権利を守る大切な制度をわかりやすく教えていただきました。活発な質問もあり、関心の高さを感じました。

今までも

そしてこれからも

酒田市立亀城小学校

教頭 五十嵐 和一

そこで、「百年のあゆみ」から大正時代と昭和四十年代の写真のスキャンしてみました。懐かしいと思われる方もおられることでしょう。

明治、大正、昭和、平成と時代は流れ、教育の姿は時代の要請に応じて変わってきましたが、本校で学ぶ子どもたちの真剣なまなざし、歓声は変わりません。来年度から新校舎建築が始まりますので、昔の校舎の写真を探してみましたが見つかりませんでした。

現在新築に向けて、現校舎のいろいろな写真を記録に残しています。今後も全職員が総力を傾注し「生きる力」を身につけ、地域や国際社会の中で活躍する子どもたちを育てていきたいと考えております。今まで以上に地域の皆様のご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

我が家は三代亀城っ子

横道町 長岡 眞一



長岡さん一家
(後列左から 眞一さん、紀生さん)
(前列左から 瑞季さん、巧真さん)

昭和二十年代の亀城小学校は『亀ヶ崎小学校』の名称で、現在の町中の学校というよりは周辺に田んぼがある自然豊かな学校であった。校舎は創立以来の本造校舎に一部二階建のスレート外壁の造りで、校舎北側には農業排水の河川が流れており鳥海山を背景とした田園風景はとてすばらしいものであった。

昭和五十年代、現在の校舎と同様であるが一部教室の配置が異なり、生徒数は千人を超えるほどの酒田市の中でも唯一のマンモス校であった。五十年を超える歳月ではあるが孫の送迎の度に当時を懐かしく思い出している。



大正時代の校舎
当時の修学旅行は鶴岡方面。(善宝寺・加茂・湯野浜)すべて徒歩の強行軍でした。

三世代亀っ子ということに深い縁を感じつつ、新校舎になっても亀城小の古き良き伝統を守り続けていってほしいと願っております。



昭和45年には西平田小学校と亀ヶ崎小学校が統合。大人も子供も学区改編という一大事業に奔走した。

亀城小学校今後の動き(予定)

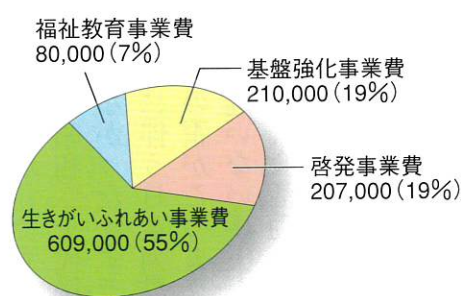
平成23年	改築設計
平成24年3月	商業高校に引越
平成26年4月	改築完成港南小学校との学校統合

校舎とのお別れの会や「亀城・港南小統合準備委員会」の設立も予定されています。

年間事業費予算

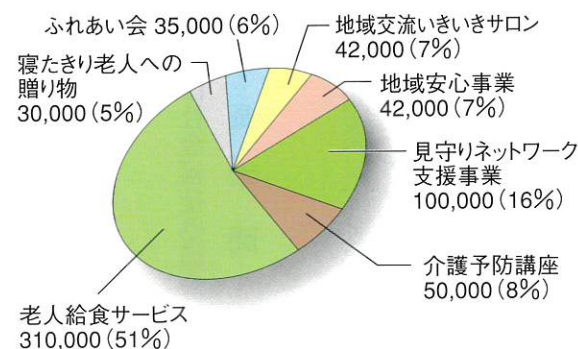
平成二十三年度亀城学区社会福祉協議会の定期総会が四月に開かれ、次のとおりの年間事業費が承認されました。

年間事業費 支出の部 1,106,000円



単位：円

新・草の根事業費 支出の部 609,000円



単位：円